

神奈川県立横浜南支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立横浜南支援学校 学校運営協議会 第3回
開催日時	令和7年1月31日（金）13:45～16:10
開催場所	神奈川県立こども医療センター 講堂他
出席者	学校運営協議会委員 9名
問合せ先	副校長 菊地 真由美 TEL 045-712-4074
審議(会議)経過	<p>(1) 分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学びの応援部会 第3会議室 ○ つなぐ支援部会 講堂 ○ 理解啓発・広報部会 第1会議室 <p>(2) 学校長より</p> <p>(3) 協議</p> <p>ア 各部会報告</p> <p>イ 令和6年度 学校評価報告 学校長より 管理運営グループ</p> <p>ウ 次年度学校運営について</p> <p>【協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が求められている者は、勉強だけではなく、人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成である。 ・教育課程の見直しについて共感する。横浜市でも、総授業数を減らし、教員が教材研究できる時間を確保するようにしている。 ・学校が社会から求められることが多くなっている。何をして何をしないか、見極めたうえで働き方改革を進めてほしい。 <p>(4) 事務連絡</p>
有識者による評価 (第三者の視点)	<p>●病弱教育の質的変換</p> <p>病弱教育で行う教科指導をリフレーミングしていく必要あり。</p> <p>限られた人数で教育を行っていくためには、個人の努力でカバーしていくのではなく、教育の質的変換が必要。</p> <p>病院に入院している子どもに必要な教育は、学力をつけることではなく、生きる希望を与えることではないか。</p> <p>教科書の内容をもれなく指導することにこだわらない。</p> <p>達成感、自己有用感、積極性につなげる。勉強してよかった、と感じさせる。</p>

	<p>授業の見方、評価も含めて見直していく。評価評定をつけることがマストではない。</p> <p>●学びの個別最適化</p> <p>子どもたちは、それぞれ病気、背景、入院入所期間が違う。個人を尊重した教育が必要。</p> <p>一見、学習空白に見えても、横浜南支援学校で、他の人ができない経験をしている、という捉え方ができる。</p> <p>子どもが横浜南支援学校で学習したことに誇りをもち、外へも発信できるようになるとよい。</p> <p>横浜南支援学校での経験を、肯定的に子どもたちが捉えられるよう、導いてほしい。</p> <p>●小中学校との人事交流を活用した教科指導の強化</p> <p>教科指導に精通した人材を加えることで、本校の教科指導力を高める。</p> <p>小中学校教員が病弱支援学校の教育を経験することで、病気や不登校の児童生徒に対する支援を担う教員を育成できる。</p>
--	--